

## 安 全 デ ー タ シ ー ト (SDS)

作成 平成 13年 11月 13日  
最終改訂 平成 28年 1月 14日

### 1.【化学物質等及び会社情報】

#### 製品

製品の名称	アルタン ケースフレッシュ
供給者情報	
会社名	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10 マーケティング室 開発企画課
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706
緊急連絡先	同上

### 2.【危険有害性の要約】

#### GHS分類

#### 物理化学的危険性

引火性液体 区分3

#### 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A-2B
生殖細胞変異原性	区分1B
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分3(麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、  
上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

#### 絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

#### 危険有害性情報

引火性の高い液体および蒸気  
強い眼刺激  
遺伝性疾患のおそれ  
生殖機能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気及びめまいのおそれ  
長期又は反復曝露による肝臓の障害  
長期又は反復曝露による神経の障害のおそれ

#### 注意書き 【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
静電気放電や火花による引火を防止すること。  
個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
容器を密閉しておくこと。

## 【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合 無理して吐かせないこと。

眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合 多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚(又は毛髪)に付着した場合 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。医師の診断、手当を受けること。

曝露またはその懸念がある場合

飲み込んだ場合 直ちに医師の診断、手当を受けること。

目の刺激が持続する場合 医師の診断、手当を受けること。

気分が悪い場合 医師の診断、手当を受けること。

## 【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 国/地域情報

国内法で規定のある場合、並びに、地域で規定のある場合はその規定に従う。

## 3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物  
成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
エタノール	20%以下	64-17-5	(2)-202	通知対象物質	非該当
界面活性剤	10~20%	—	—	通知対象外物質	非該当
グリセリン	—	56-81-5	(2)-242	通知対象外物質	非該当
pH調整剤	—	—	—	通知対象外物質	非該当
精製水	—	—	—	通知対象外物質	非該当

## 【危険有毒性の分類】

分類の名称 引火性液体

危険性 引火しやすい液体、蒸気は空気と一定量混合すると爆発性混合ガスとなる。

有害性 工業的には比較的無害の溶剤とみなされるが、蒸気を吸入すると麻酔剤として働き、繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛などを起こす。

## 4.【応急処置】

目に入った場合 清浄な水で15分以上洗眼し、直ちに専門医の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 大量の水で洗い流す。洗い流してから水と石鹼で、皮膚を洗浄する。溶剤、シンナーを使用しないこと。

大量に付着した場合 衣服を直ちに脱がせ、水で流しながら洗浄し、石鹼を使って洗浄する。

吸入した場合 直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静に努める。症状があらわれた場合、直ちに専門医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合 水でよく口内を洗浄した後、コップ数杯の水を飲ませ希釈し、可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに専門医の手当てを受ける。

## 5.【火災時の措置】

消火方法 大規模の場合、燃焼中の製品は消火剤で消火すると共に、周囲を水噴霧で冷却する。小規模の場合、水、炭酸ガス、粉末(ドライケミカル)消火器で消火する。

消火剤 水、炭酸ガス、粉末(ドライケミカル)消火器

## 6.【漏出時の措置】

作業の際には、適切な保護具(保護眼鏡、防毒マスク等)を着用する。  
 浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となる可燃物は速やかに取除く。  
 少量の場合は、こぼれた場所を速やかに、大量の水で洗い流す。  
 大量の場合は、漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、回収できなかった液は大量の水で洗い流す。

## 7.【取り扱い及び保管上の注意】

- 取扱い** 火気と高温に注意し、使用法、注意事項をよく守ること。  
 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、吸入したり、目に入らぬよう適切な保護具を着用する。  
 アルコール流動その他により静電気を発生させる恐れがあるため、着火源電気設備等静電気を発生する恐れのある場合は、静電気を有効に除去する装置を設ける。  
 炎や火気の近くで使用したり、火気を使用している部屋で、大量に使用しないこと。  
 容器を廃棄する時は、火気のない場所で、使い切ったことを確認して水洗いし、不燃ごみとして廃棄する。
- 保管** 幼児の手の届かない所に置くこと。  
 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や、火気等の近くなど、温度が40℃以上になる所に置かず、通気性が良く、遮光された、冷暗所に保管する。

## 8.【暴露防止及び保護措置】

- |      |              |                 |                                  |
|------|--------------|-----------------|----------------------------------|
| 管理濃度 | エタノール100%の場合 |                 | 設定なし                             |
| 許容濃度 | エタノール100%の場合 | 日本産衛学会<br>ACGIH | 設定なし(2009年版)<br>1,000ppm(2009年版) |
|      |              |                 | STEL                             |
- 設備対策** ミストが発生する場合は発生源の密閉化  
**保護具・呼吸器の保護** 必要に応じて、有機ガス防毒マスクを着用する。  
**目の保護** 必要に応じて、保護眼鏡を着用する。  
**皮膚・身体の保護** 必要に応じて、ゴム手袋・安全靴・帯電防止保護衣を着用する。

## 9.【物理的及び化学的性質】

状態	液体	
色調	無色透明	
臭気	特有の芳香	
味	やけるような味	
沸点	データなし	エタノール100%の場合 78.32℃(101.325kPa)
融点	データなし	エタノール100%の場合 -114.15℃
蒸気圧	データなし	エタノール100%の場合 5,878Pa(20℃)
蒸気密度	データなし	エタノール100%の場合 1.59
比重	0.9~1.1(20℃)	
pH	2.5~3.5(15℃)	
その他	-	

## 10.【安定性及び反応性】

引火点	データなし	エタノール100%の場合 13.0℃
発火点	データなし	エタノール100%の場合 439.0℃
爆発限界	データなし	エタノール100%の場合 空気中で下限3.3vol%~上限19.0vol%
安定性	安定	
反応性	硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。	
溶媒に対する溶解性	水、エーテルによく溶ける	
その他	-	

## 11.【有害性情報】

- |              |        |                  |            |           |
|--------------|--------|------------------|------------|-----------|
| エタノール100%の場合 |        |                  |            |           |
| 急性毒性         | 経口 ヒト  | LD <sub>0</sub>  | 1,400mg/kg | 行動、胃腸(吐気) |
|              | 経口 ラット | LD <sub>50</sub> | 7,600mg/kg | 呼吸器系      |

一般毒性	吸入 ラット	LC <sub>50</sub>	20,000ppm/10h	毒性未評価
	経口 ヒト(男)	TDL <sub>0</sub>	700mg/kg	行動(精神生理学上)
	注射 ラット	LD <sub>50</sub>	1,440mg/kg	
	注射 犬	LDL <sub>0</sub>	1,600mg/kg	運動失調、呼吸器系
	腹腔 哺乳類	LD <sub>50</sub>	4,300mg/kg	運動失調
局所効果	皮膚 ラビット		400mg	開放 症状(軽度)
	皮膚 ラビット		500mg/24h	症状(重度)
	目 ラビット		100mg/24h	症状(中度)
発がん性	経口 マウス	TDL <sub>0</sub>	320mg/kg/50週	毒性未評価
変異原性	小核 マウス(腹腔)		1,240mg/kg・48h	
生殖毒性	吸入 ラット	TCL <sub>0</sub>	20,000ppm/7h	妊娠1～22日発育異常
	経口 ラット	TDL <sub>0</sub>	44g/kg	妊娠7～17日発育異常

12.【環境影響情報】		エタノール100%の場合		
残留性/分解性		理論酸素要求量	2.1mg/l	
生態毒性				
魚毒性	マスの幼魚	LC <sub>50</sub>	11.2g/l・24h	
	コイの一種	LC <sub>50</sub>	18.0～13.4g/l・96h	
	クレークチャブ	LC <sub>50</sub>	7g/l・24h	
	グッピー	LC <sub>50</sub>	11g/L・7日	
その他	オクタノール/水分配係数		-0.30(logPow)	
	BOD <sub>5</sub>		0.93～1.67mg/L	
	COD		1.99～2.11mg/L	
	バクテリア硝化能の抑制		4,100mg/Lでニトロソモナス種のアンモニア酸化の50%抑制	

## 13.【廃棄上の注意】

製品の廃棄については、取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項によること。  
使用後の容器または配管等を廃棄処分するときは、内容物を水洗いしてから処理する。

## 14.【輸送上の注意】

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。  
運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国連分類	クラス3(引火性液体)
国連番号	1987 アルコール類
国内規制	
航空法	規則194条 3 引火性液体(引火点60.5℃以下)
港則法	規則12条 危険物告示別表 引火性液体類(高引火点引火性液体)
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	施行令 別表第1の2 13 有害でない物質

## 15.【適用法令】

労働安全衛生法	施行令 別表第1 危険物 4.引火性の物(アルコール) 施行令 別表第9 名称等を通知すべき有害物 62(アルコール)
食品衛生法	食品添加物
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類(高引火点引火性液体)

本品はエタノールを含有するが、濃度が60重量%未満のため、平成元年3月1日消防危第14号・消防特第34号の通知により消防法における危険物には該当しない。

## 16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糞谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

---

**改訂履歴**

作成	平成 13年 11月 12日
改訂	平成 14年 5月 30日
改訂	平成 23年 1月 27日
改訂	平成 27年 1月 5日
改訂	平成 27年 8月 10日
最終改訂	平成 28年 1月 14日

---

**参考文献**

財団法人バイオインダストリー協会 アルコールハンドブック第9版(1997)  
社団法人日本化学会編 化学便覧(改定4版) 丸善(1993)  
化学工業日報社 13700の化学商品  
化学工業日報社 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版第3集(1997)  
平成元年3月1日消防危第14号、消防特第34号  
「危険物の規制に関する政令等の一部を改正する政令等の施行について」

**注意**

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。